

5

観測で迫る宇宙磁場とブラックホール

宇宙磁場（磁気）とブラックホールは、いずれも光で直接見ることはできませんが、宇宙の進化や活動性に深く関わっている重要な存在です。この講座では、広島大学宇宙科学センターが関わってきた観測研究で、近年大きく進展した宇宙磁場やブラックホールの知見について紹介します。

会場	対面： - オンライン： Zoom
時間	16:00 ~ 17:15
定員	対面： - 名 オンライン： 200 名
対象	どなたでも
受講料	無料
申込方法	Web
申込期限	一次申込締切： 4/11 (木) ※ 定員に達しなければ 6/21 (金) (必着) まで先着順で受付

天の川銀河の磁場を見通す

講師：宇宙科学センター 教授 川端 弘治

第1回

6/29 (土)

16:00 ~ 17:15

磁場とプラズマは互いに結び付いているため、星間磁場は一部電離した星間ガスの動きを抑制したり、その動きに引きずられて伸びたりしています。そのため、星間磁場は銀河系内の天体の進化と深く関わっていると考えられますが、その磁場の構造はよくわかっていません。広島大学が最近開始した偏光サーベイプロジェクトと、その観測で垣間見られつつある天の川銀河の一風変わった磁場構造の話をしたいと思います。

X線偏光で探る中性子星周りの磁場

講師：宇宙科学センター 准教授 水野 恒史

第2回

7/6 (土)

16:00 ~ 17:15

太陽の10倍程度以上の重たい星は進化の最後に大爆発を起こし、中性子の固まりの天体である「中性子星」を作ります。生まれたばかりの中性子星は極めて強い磁場を持って高速で回転し、周りの空間に影響を与えながら様々な波長（色）の電磁波を放出します。この講座では、目に見えないくらい「青い」光であるX線を使って、中性子星と周りの磁場構造を探る研究を紹介します。

ブラックホールの影をあばきだす

講師：宇宙科学センター 准教授 植村 誠

第3回

7/13 (土)

16:00 ~ 17:15

ここ30年ほどあらゆる銀河の中心に太陽の百万倍以上の質量を持つ超巨大ブラックホールが存在することがわかってきましたが、光を出さないブラックホールの姿を直接捉えることはできません。そのようなブラックホールの「影」を地球規模の電波望遠鏡群で暴き出す野心的なプロジェクトEHTで用いられている精巧なデータ処理には、宇宙科学センターのメンバーも関わり、データ可視化の新しい技術が投入されています。その辺りを判り易くお話しします。

講座内容に関する
お問い合わせ先

学術・社会連携室 地域連携部

電話： 082-424-5691

メール： chiikirenkei@office.hiroshima-u.ac.jp